

【評価】 S:目標を大きく上回る達成 A:目標を上回る達成 B:目標を達成または概ね達成 C:目標を達成せず D:目標を大きく達成せず

大項目	中項目	小項目		自己評価			学校関係者評価		今後の学校改善に向けて
				小項目評定	中項目評定	現況	中項目評定	意見・提言等	
I 進んで学びやとげ	学習指導の充実	1	教材研究に努め、ICTを積極的に活用するなど、楽しくよくなる授業を進めた。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> デジタル教材、書画カメラ等を必要に応じて活用し、見てわかる授業を工夫できた。 学習の構え、ノート指導、基礎的な事柄の継続指導等の重点を共通理解して、日々の学習指導に生かした。 基礎計算テストを初実施し、取り出し授業等に利用できた。 ミニ研修を実施し、互いに学び合う場を持てた。 統一なわとびカード、百人一首等、学校全体で取り組めた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 読解力を身につけさせてほしい。新聞を授業に生かしていけるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育情報、実践が話題にあがる職員室にする。 ICTの環境整備を引き続き行い、使いやすくなる。 ICTの研修を行う。 職員ミニ研修を定期的に行い、若手教員への指導法等の伝達の場とする。 基礎計算テストを行い、経年変化を見る。 高学年向けに、発展問題の宿題を定期的に出す。
		2	基礎学力の定着を目指し指導体制を整え、指導方法の工夫に努めた。	A					
		3	指導力・教育力の向上を目指し、職員研修に努めた。	A					
	読書活動	4	読書の楽しさがわかるよう、教師による読み聞かせや本の紹介などを行った。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 読書貯金カードが有効だった。 学級文庫等の環境整備が課題である。 朝読書は、学年により取り組みに差があるが、徐々に定着してきた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 和邇図書館の利用をもっと進めていってどうか。 読書貯金カードのように、有効だった方法を是非続けてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝読書の定着をさらに図る。 調べ学習の本を充実させる。 図書部の人数を増やし、定期的に図書部で集まる。 図書ボランティアの方と連携し、読書環境の整備を進める。 保護者に、本の寄贈をよびかけ、学級文庫を充実させる。
		5	読書環境・体制の整備や地域人材等の活用を行った。	A					
	学び合い	6	支持的風土を育てる学級・学年集団づくりを進めた。	S	A	<ul style="list-style-type: none"> 校内研(聞く、話す)において、コミュニケーションを意識した授業改善を行った。 授業形態の工夫を必要に応じて行った(グループ、ペアなど)。 	A	<ul style="list-style-type: none"> よく発言をする子だけでなく、発言をすることや学習自体が苦手な子に対して、配慮をしてほしい。 全員の子どもがわかる喜びを感じられるよう、教員の研修を充実させてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 学びあいのある授業をめざし、支持的風土の醸成、授業形態の工夫等を図る。 校内研は、今年度に引き続き、「伝えあう力を高める」をテーマに研究を進める。 コミュニケーションを意識した授業改善を引き続き行う。 ミニ研修会をいろんな教師が行う。
		7	協同する体験・伝え合う喜び・コミュニケーション能力の育成を図る授業の工夫改善に努めた。	A					
		8	学び合いを追求する授業研究や教員研修に取り組んだ。	A					
II 仲良く助け合う子	道徳教育・特別活動の充実	9	生命を尊重する心や人権の尊重などの道徳的実践力を育てる指導を工夫した。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 人権の日、人権週間等の取り組み、通信での啓発等を継続して行った。 しかし、コミュニケーションの力の不足から生じるトラブルも多い。 道徳の授業公開が教材開発につながっている。 学級会では、系統立てた話し合いのシステムが構築できていない。 当番活動、係活動両方行い、児童の自治能力を高めようとしているクラスが多い。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 道徳教育をさらに進めてほしい。大切な価値をしっかりと身につけさせてほしい。 前年度の、道徳教材をきちんと引き継げるようにしておくとうい。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもを引きつける道徳教材の開発を行う。 全校で統一された話し合いのシステムの提案をする。 わにっ子集会の内容を改善する。みんなが参加できるゲームを工夫する。 委員会の発表を終業式等の場も利用して行う。 環境委員会とピカピカ委員会を一つにする。 掲示委員会を情報委員会とし、昼休みのCP室の管理を担当する。
		10	道徳の資料開発・整備に努め、積極的に授業公開を行った。	B					
	11	自治的能力を高めるため、学級活動や児童会活動など、発達段階に応じた適切な指導を行った。	A						

大項目	中項目	小項目	自己評価			学校関係者評価		今後の学校改善に向けて	
			小項目評定	中項目評定	現況	中項目評定	意見・提言等		
生徒指導の推進	12	「3つのそろえる」に全教職員が一体となって取り組んだ。	A	S	・くつ揃えは、概ね良好。 ・あいさつは、朝より帰りの方がよくできている。 ・生徒指導に関わる問題は、オープンに議論できており、個人で抱え込まない雰囲気になっている。 ・医療機関との関わりが少ない。	A	・しつけは家で教えるべきことだが、学校でも、協力をお願いしたい。 ・おはよう、こんにちは等のあいさつだけでなく、ありがとうと言える子どもを育てたい。	・はき物揃えは、委員会の取り組みにしていく。 ・あいさつの評価規準を作ることで、目標を明確にしていく。 ・SV、SCさん等と連携し、他機関とつながっていく。	
	13	生徒指導・教育相談体制を確立し、問題行動の予防・早期発見・3公3現の原則に基づいた対応に組織的に取り組んだ。	S						
	14	問題行動や不登校傾向児童に対して、保護者・関係機関と連携して取り組めた。	S						
	特別支援教育の推進	15	組織的・計画的な特別支援教育の体制づくりに努めた。	B	B	・組織的、計画的な特別支援の体制作りを十分に行えなかった。 ・関係機関と連携し、計画的に、教育相談を行えた。	B	・学級担任だけでなく、体制を整え、関係機関とつながりながら、進めてほしい。 ・親とつながる中で、問題のある行動の背景をしっかりと見極めていただきたい。	・SC、SV、巡回相談等の線分けをし、全職員に説明する。相談しやすい体制にしていく。
		16	校内委員会を組織し、支援を要する児童の指導計画を作成し、活用するよう努めた。	B					
		17	関係機関と連携した教育相談体制の充実に努めた。	A					
III 健康でたくましい子	体力作り	18	たくましい心と体を育てる魅力ある授業改善に努めた。	A	A	・マラソン大会までの練習期間が短く、十分な取り組みができなかった。 ・体育掲示板を作り、啓発に努めた。 ・長縄大会の取り組みを学校全体で行った。	A	・休み時間にしっかりと遊ばせてほしい。みんなで遊んだり、外で遊んだりする中で、身につくことがたくさんある。	・行間マラソンの取り組みを計画している。 ・年間計画を見直し、つけたい力と具体的な取り組みが合うようにしてく。 ・体力テストの結果から、体力分野ごとの強み弱みを考察し、全校の取り組みに波及させていく。
		19	運動に親しむ環境づくりや体力づくりに努めた。	A					
		20	体を動かす気持ちよさを体験させ、進んで体を動かそうとする意欲を育てた。	S					
IV 育ちを支える連携	家庭・地域連携	21	保護者に対して、子育てに対する支援を行った。	B	A	・引き渡し訓練を初実施できた。 ・学校便りで情報発信できた。	A	・スマホや携帯は、約束を決め、一定のルールの中で、使わせることが大切である。親への啓発をしていただきたい。	・安全対策全体会を見直し、スクールガード研修会を行う。児童との対面の場とする。 ・スクールガード各団体の把握、団体間の連携を行う。・腕章を作る。 ・携帯、スマホ教室(保護者向け)を2学期に行う。同一地域の小学校、中学校との指導連携を図る。
		22	保護者・地域との交流や情報発信、参観、懇談会、研修会等実施に努めた。	A					
		23	防災教育の推進と安心・安全な学校づくりを進めた。	S					
	保幼小中連	24	子どもの校種間交流や教員の出前授業等、積極的な連携に努めた。	A	A	・保幼小中交流での、出前授業交流、ペットボトルキャップ集め、夏の研修会等の交流を実施できた。	A	・出前講座等保幼小中の交流を今後も続けていきたい。	・夏の保育体験などで、幼保との連携をさらに深める。
		25	校種間の合同研修会や教育内容等の交流に努めた。	A					

* 3公=公開、公平、公正

* 3現=直ちに現場、直ちに現地の児童、生徒、直ちに現地で対策